

紀州鉾山の真実を明らかにする会が海南島における日本の侵略犯罪の「現地調査」を始めたのは1998年6月でした。2007年8月に、紀州鉾山の真実を明らかにする会のメンバーが中心になって海南島近現代史研究会を創立しました。

わたしたちは、海南島で日本の侵略犯罪の実態を調査するとともに、海南島における抗日反日闘争の軌跡をたどってきました。その20年間のあゆみを前提にして、今回の定例研究会の主題を「日本の侵略犯罪・アジア太平洋民衆の抗日反日闘争」とし、アジア太平洋全域における国民国家日本の侵略犯罪を明らかにし抗日反日闘争の歴史を追究する実証的な民衆史の方法について話し合うことにしました。

各報告のテーマと討論の要旨はつぎのとおりです。

■佐藤正人 「二〇年間(1998年—2017年)、32回の海南島訪問の途上で」

■金城馨 (関西沖縄文庫) 「琉球処分は続いている」

沖縄の青年が仕事を求めて大阪に来て、彼らを待ち受けていたのは「朝鮮人・琉球人お断り」という差別と排除であった。

この日本社会で生きていくために青年たちは自己防衛として1975年から「エイサー祭り」を始めた。「エイサー祭り」は沖縄の文化と民族としてのアイデンティティを保持するものである。ところがそれが沖縄の先輩たちから「恥さらし」と批判を受けた。その背景には、現在も「琉球処分」が続いていることがある。1879年の「琉球処分」は、日本に同化することと迎合することを強要するものであり、これは、今も同じである。

また、1903年の「人類館事件」のとき、本当の意味で事件化するのではなく、沖縄は日本人であるのに、アイヌモシリ・台湾・朝鮮・インド・ジャワ・マレーと并列に置いたことを問題にした。これは、日本人への同化を志向した負の歴史である。

1924年には沖縄県民会を結成し差別に抗してきた。しかし、差別する側の日本人が、差別することをやめないなかで少数である沖縄人は、差別される側から差別する日本人の側に身を置

くことで、生き延びるようになった。

今、それを現在に当てはめると沖縄基地の「県外移設」がある。

日本の平和運動が、すべての基地をなくすといいつながら、沖縄に米軍基地が集中させてきた歴史がある。基地を押し付ける者と押し付けられた者との関係性と責任性を明確にするべきである。同じ日本人だから手を取り合ってアメリカの基地撤廃を闘う、というのではなく、日本人が沖縄に押し付けた基地をまず自分らで引き取ってから基地撤廃をいうのが、「県外移設」の意味だ。

単なる権力と闘って基地が撤去できるのではなく、自分らが押し付けた基地を引き取ることによって、沖縄に基地を押し付ける暴力の共犯化を拒否することは、日本人、一人ひとりが自分の意志でできる基地反対闘争である。

沖縄人には、人類館事件を事件にしなかった責任がある。植民地として支配されながら、植民地主義を克服できない責任がある。

沖縄人はこの問題を問い直すなかで、アジアと、どう、つながっていくかを考えていかなければならない。

■金静美 「海南島に連行された朝鮮人と台湾人の歴史」

■斉藤日出治 「海南島における日本の侵略犯罪と「大東亜戦争」

日本は1930年代から中国、モンゴル地域を侵略し、1940年代末からアジア太平洋地域を侵略する「大東亜戦争」を開始し、アジア太平洋地域の資源を奪いました。

この方針が海南島はじめアジアの南方進出を

図った日本軍の戦略のなかに明示されています。

海南島における住民虐殺、強制労働、資源・食糧・各種産業・家財の略奪、性暴力、住民の虐待、村落の破壊は、この奪い尽くし利用し尽くすそうとする戦略がもたらした帰結です。

■日置真理子 「極東国際軍事裁判文書に記録されている日本軍の海南島侵略犯罪 1」

「A級極東国際軍事裁判記録(和文)No50に、日本海軍によってインドネシアのアンボン島から海南島に連行されたオーストラリア兵捕虜の証言(同じ区域に中国人労働者が多数宿泊していた。約20人の中国人労働者が掘った穴に、120人ほどの中国人労働者がトラックで連れていか

れ、その後悲鳴を聞いた)をふくむ記録があります。

極東国際軍事裁判文書に記録されている日本政府と日本軍(特に日本海軍)の海南島侵略犯罪の分析はこれからの課題です。

■竹本昇 「「ピースおおさか」の侵略の事実隠しに対抗する裁判闘争」

■全体討論 国民国家の侵略犯罪と抗日反日闘争

国民国家日本の歴史はアジア太平洋侵略の歴史でした。この時代は全世界的な規模でいまでも終わっていません。海南島近現代史に内包されている世界近現代史における国民国家の侵略犯罪の全容をいかに明らかにしていくかについて話し合いました。

また、海南島近現代史研究会が提案した「日本政府に2015年12月28日の「日韓合意」の撤回を求める」集会決議案をめぐって討論がおこなわれました。以下は、そのときの発言の一部です。

Aさん 「慰安婦」について、日本軍が関与したということを知らない人が多い。日本は植民地支配しているところの女性を性奴隷にしたが、そこに軍および国が関与した。女性をそのように扱ったことを書き入れるべきだ。

と国との合意を今さら、みたいな論調が目立っているが、国連の方では、女性差別撤廃委員会と拷問禁止委員会と自由規約委員会が、この合意はおかしい、撤廃するべきと言っており、国際的には日本政府の方が批判されている。

Bさん 全面的に賛成します。「日韓合意」が話し合われた時点では、朴槿恵政権と安倍政権でした。ところが、連日、ソウルで100万人以上の民衆が立ち上がり朴槿恵政権を倒して、今の文在寅政権になった。民衆が立ち上がって大統領が替わった。状況が全く変わっているという認識が必要だ。元「慰安婦」にされた当事者とほとんどの民衆が反対している現状を認識するべきだ。

Dさん この案に全面的に賛成です。「不可逆的」という言葉を使うことは、反省していないということだ。侵略戦争の反省なしに合意などありえない。

Eさん 少女像のまっすぐな目つきをまともに見られないのだろう。まともに見られるようになるまで、ゴメンなさいと言い続けるべきです。世界中に少女像が建てられたらいいと思う。

Cさん 全面的に賛成です。マスコミでは、国

Fさん 若い人と、このようなことに興味のない

い人に広めることが大事と思っています。

Gさん 被害者が納得していないのに加害者が一方的に押し付けるのは解決ではない。相手が納得するまで、謝らないかん。これは、国家も個人のことも同じだ。「日韓合

意」は撤回が正しい。

※ その後、この抗議要請文を集会参加者一同の合意で決議しました。

海南島近現代史研究会第22回定例研究会・第12回総会

2018年8月18日

「海南島近現代史研究の軌跡と現状、そして未来」というテーマを掲げました。1998年6月にわたしたちは初めて海南島を訪問し、以来20年にわたって海南島の現地で日本の侵略犯罪、および民衆の抗日反日闘争に関する証言を聴かせてもらってきました。そして、今日に至るまで続いている日本の他地域および他国家の侵略の時代を終わらせるための民衆運動を追求してきました。この20年間でわたしたちが何をなしえたのか、これからどうすべきなのか、について話し合いました。

2009年6月から9年間、海南島で共に調査、聞きとりをおこなってきた海南島人で海南島近現代史研究会の会員である邢越さんから「回顧和海南島近現代史研究会共同走过的日子和今后的期待」が寄せられました。各報告のテーマと討論の要旨はつぎのとおりです。

■佐藤正人 「20年間に何ができたか、何ができなかったか」

■金静美 「植民地朝鮮から海南島に連行された朝鮮人」

■斉藤日出治 「海南島における日本の国家犯罪と日本人の「戦後」責任」

日本政府は、1941年12月8日に開始したにアジア太平洋戦争をその4日後に「大東亜戦争」と規定し、「アジアの植民地を解放し、大東亜細亜共栄圏を設立する」を戦争目的とし、その地域の資源を略奪し住民の生活を蹂躪し文化を破壊し人びとの生命を奪いました。

海南島の軍事侵略下で日本がおこなった資源略奪、強制連行、強制労働、食糧の略奪の実態

は、この「大東亜戦争」がどのようなものであったのかを示しています。

日本の「戦後」は、「大東亜戦争」における犯罪を否認することから成り立っています。海南島における日本の国家犯罪はまるでなかったかのごとくにされています。わたしたちの運動は、この「戦後」社会の根底にある国家犯罪の否認を許さない闘いでもあります。

■竹本昇 「海南島における侵略の事実を伝える」

■日置真理子 「極東国際軍事裁判文書に記録されている日本軍の海南島侵略犯罪 2」

「A級極東国際軍事裁判記録(和文)」のNo.50には、オーストラリアのW・エイケン医師の供述があります(アンボン島で捕虜になり、1942年11月に海南島に到着。不衛生な仮小屋で、食物がとても不足していた。よろめいている病人

も労働を強制され、たびたび殴打された。多くが脚気、赤痢、飢餓、マラリア等で死んでいった)。

この記録のなかの捕虜の証言に、日本が侵略して各地での暴行、殺人などが示されています。

■蒲豊彦 「三竈島と沖縄」

日本海軍は日中戦争が激化する中で航空基地を建設するために1937年12月から香港近くの三竈島に侵入しその後7年近くにわたって占領を続けました。1938年4月にはその占領に反対する島の多くの住民を虐殺します。9月に航空基地がほぼ完成した後、1939～1941年に沖縄か

ら三竈島に約350人の移民が侵入しました。

日本敗北後、三竈島は中国の内戦の際に、中華民国政府が台湾に撤退するための撤退センターになりました。そのため、抗日ゲリラとして活躍したひとびとが、共産軍によって粛清を受け虐殺されました。

■竹本昇 「ピースおおさか改悪リニューアル裁判上告と「取り戻す会」の発足」

■全体討論 海南島近現代史研究の意味と今後の課題

日本国家の政治的・経済的・社会的・文化的侵略構造は、19世紀後半から現在まで変わっていません。日本の他地域他国侵略の構造を破壊する民衆の歴史認識について討論しました。

会場の参加者から、自分の家族の戦争体験、あるいは自分が取り組んでいる活動、さらには日本の現状における歴史認識のありかたなどについてたくさんの発言がありました。ごく一部ですが、紹介します。

Mさん 最近、私の母が亡くなりました。その関係で戸籍謄本を取り寄せたところ、私の父親の国籍を調べたら、南満州南東、今は丹東だったことがわかった。私の父親は戦争体験世代だが、何も語りませんでした。話が聞けたら、今のおかしな日本の現状などが見えてくるのではないかと。安倍晋三の祖父の岸信介は「満州は私の作品だ」と言ったが、その「作品」で、どれだけ、日本が、中国・朝鮮の人たちに迷惑をかけたか、考えなければなりません。

Yさん 海南島のことは、ぜんぜん知らなくて、日本の当時の侵略というのは、全面的であらゆるところで、あらゆるとんでもないことをしてかしてしたんだな、と思います。けれど、その調査されていない所がいっぱいある。この調査は、戦争なり侵略なり、そういう反人権的なおこないが将来にわたって繰り返されないようにするためですが、現在の時代の流れは、全く逆の方向に流れています。この流れに抗するためには、具体的に事実を僕ら自身が学び、と

くに若い人たちが、学ぶ機会を持っていかんなあかんと思います。そのためにどうしたらいいのか、考えていきたいです。

Nさん わだつみ会で活動してきて、1970年ごろから、天皇制の問題と戦争責任の問題を大きい課題としてきました。それを、もっと、地についた形でやりたいと思って参加しました。

Mさん 母が先日、亡くなりました。自分と海南島は全く関係ないと思っていたのですが、生前の母の話では、戦時中に海軍でフィリピンに行き、フィリピンから逃げる時にアメリカ軍の潜水艦にやられて4隻しか残らず、その1隻が海南島で避難したと聴きました。

Bさん 自分の父は戦争中、中国の青島で小学校の教師をして、敗戦の末期に海軍に召集されたけれど、当時のことをほとんど話さない。でも、自分が今戦争をいやだと発言しなかったら父と同じことになるのではないかと。今日の集会はとても勉強になりました。

■2018年秋の海南島近現代史研究会の20回目の海南島「現地調査」について